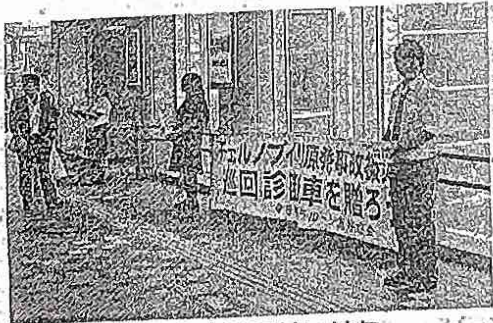


22年12月4日 朝日新聞・東北版

探究!探Q!

秋田発のベラルーシ支援 20年に



「事故を風化させてはいけない」と協会は今も月に1度、街頭募金を行う＝JR秋田駅

秋田市に「日本ベラルーシ友好協会」というNPO法人があると聞いた。外務省のホームページでも紹介されている。東欧のベラルーシと秋田にどんなつながりがあるのか。ともに「美人が多い」と思いついたが……。

「残念ながら、美人とは関係ありませんよ」。事務所を訪れると、事務局長の佐々木正光さん(60)が最初に一言。協会は1986年のチェルノブイリの原発事故で被害を受けたベラルーシを

援助するために91年に設立した。佐々木さんが貿易の仕事でベラルーシ人と知り合ったのがきっかけだ。

被災した子どもの診察を秋田で受けさせたり、現地に医療器具を送ったりしてきた。秋田大医学部などで受け入れたベラルーシ人の医師や研究者は約70人になる。

事故から25年近くたつが、ベラルーシでは18歳以下の甲状腺がんが急増するなど後遺症は深刻だという。

来年で協会設立20年。活動が長続きする理由を尋ねると、こんな答えが返ってきた。「ベラルーシ人はまじめで勤勉だけど、酒を飲むと陽気になる。美人だけでなく、秋田と共通点が多いんですよ」
(田中祐也)

地元でみつけた疑問や驚きをお知らせ下さい。あて先は左ページ題字の下に。

No.96